

SATテクノロジー・ショーケース2022開催結果報告書

R4.3.4 つくばサイエンス・アカデミー

○1月27日(木)につくば国際会議場において対面で開催予定であった「SATテクノロジー・ショーケース2022」は、新型コロナウイルス感染急拡大を踏まえ、発表者・一般参加者の感染リスクを減らすため、1月21日(金)に開催形態をホームページの活用やオンライン配信に切り替え実施しました。

- 1 開催期日 令和4年1月27日(木)～2月28日(月)
ポスターのホームページへの掲載は、1月27日8:30～2月28日
インデクシングの音声付き資料の配信は、1月27日9:30～2月28日
特別シンポジウムの映像配信は、1月27日16:00～2月2日
- 2 開催形態 ホームページの活用(ポスター発表、インデクシング、企画・広報展示)
オンライン配信(会長挨拶、特別シンポジウム、閉会式)

3 内容等

- (1)ポスター発表 91件(一般 89件、つくば発注目研究 2件)
ホームページに掲載したポスターの閲覧数(企画・広報展示含む)
1/27 3,441回(ショーケース特設ページへのアクセス数4,553回(ポスターの閲覧数含む))
1/28～2/28 2,830回(同上 4,548回)

- (2)インデクシング 89件(一般 88件、つくば発注目研究 1件)
ユーチューブでの音声付き資料の視聴回数
1/27 642回
1/28～2/28 632回

- (3)企画展示 1件(茨城県)

- (4)共催機関広報展示 14機関

- (5)「発明無料相談」の案内

- (6)特別シンポジウム(企画：防災科学技術研究所)

メインテーマ「情報による防災力強化：Information for Disaster Resilience」

■講演

防災科学情報を活用したICT×防災

講師 李 泰榮 防災科学技術研究所 災害過程研究部門 副部門長

自治体・NPOによる防災ツールを活用した防災教育

～ICTツール「YOU@RISK」を活用した防災”共”育の可能性

講師 中野 雅嗣 NPO 法人ふるさと未来創造堂 常務理事兼事務局長

防災科学技術研究所の情報プロダクトを活用した効果的な災害対応

講師 取出 新吾 防災科学技術研究所 総合防災情報センター センター長補佐

情報プロダクトを防災に活かした民間企業による取り組み

講師 高井 剛 鹿島建設(株) 技術研究所 都市防災・風環境グループ
BCP・リスクマネジメントチーム リーダー

■ パネル討論

「情報による防災力強化」をテーマに、パネリストとして前出の4名の講師に

- ・森 祐介 つくば市 政策イノベーション部 部長
- ・遠藤 隆光 茨城交通(株) 常務取締役

が加わりパネル討論を行った。

モデレーター：林 春夫 防災科学技術研究所 理事長

ズームで講演、パネル討論を行いその映像をユーチューブでライブ配信し、その後、アーカイブ配信しました。

ズーム参加者 34 名、ユーチューブのライブ最大同時接続者 70 名で計 104 名がライブで特別シンポジウムに参加、視聴しました。

アーカイブ配信での視聴回数	1/27	48 回
	1/28～2/2	195 回

5 結果

- ・ポスター発表等数は昨年より 10 件多い 94 件。分野別に見ると、物質材料(22 件)、生命科学(11 件)、農林水産(10 件)、環境(9 件)、ナノテクノロジー(7 件)、防災(5 件)など 15 分野でした。
- ・開催の 6 日前に開催形態を対面からホームページの活用やオンライン配信に切り替えたため、ポスター発表者に新たな資料の提出等の急なお願いをすることになってしまい、なかには対応が間に合わず参加できなかった者もいました。
- ・急な開催形態の変更のため、プレゼンテーション賞の投票やアンケートで感想やご意見をいただく検討ができず、プレゼンテーション賞を楽しみにしている発表者には残念なことになってしまいました。
- ・ポスター発表については、ホームページへの掲出やインデクシングの音声付き資料の配信である程度の形を整えることはできましたが、一般参加者との議論の機会を設けることができず、次回は、議論の機会が設けられるよう今回の反省点を踏まえた対策を検討します。